

資料

1, 教材による展開例

目 標

- ・下穴の必要性がわかり, 釘を使って接合することができる。

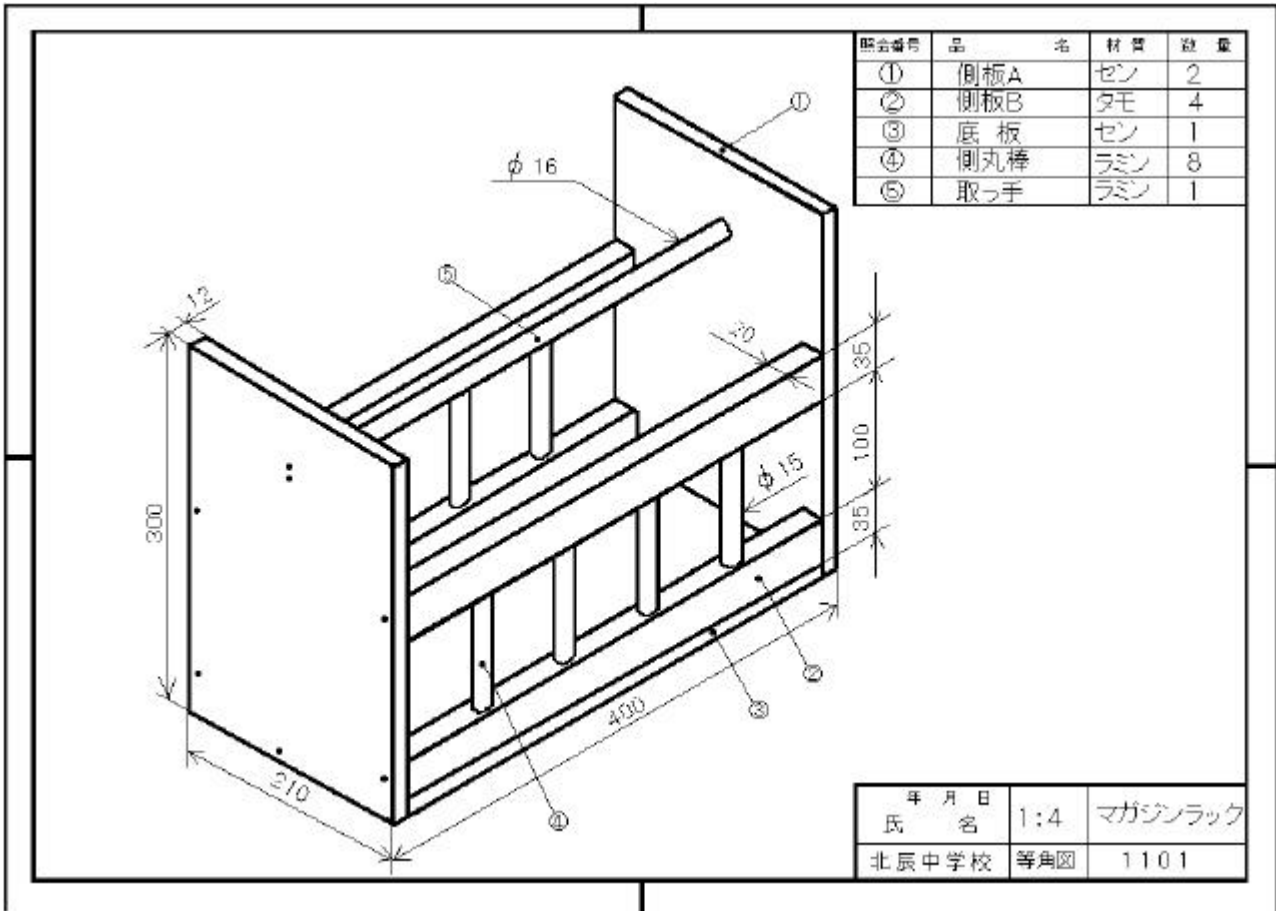
展 開

学習の流れ	予想される生徒の活動	教師の指導と支援	留意点
課題の把握 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容を整理する。 	板書
	釘をうまく打つ方法を学習しよう。		
課題解決への努力 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな失敗例があるか考える。 <p>予想される失敗例</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・釘が飛び出す。 ・板が割れる。 ・釘が曲がる。 ・釘の頭を沈ませるまで, 打ちつけることができない。 ・部品に傷をつく。 </div> <p>下穴の重要性を知る。 玄能の働き(平面, 木殺し)を知る。 ひじ, 手首の使い方を知る。 きりの使い方を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな失敗例があるかを生徒に質問する ・でてこない場合は, 失敗例を提示する。 ・それぞれについて補足説明をする。 ・失敗しない方法を教える。 <p>下穴の重要性 玄能の使い方</p> <p>ひじ, 手首の使い方 きりの使い方</p>	失敗例の提示 (実物)
課題解決 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・作業を行う。 ・テストピースを取りに行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に作業をさせる。 ・テストピースを配布する。 	安全面の確認 テストピース きりの配布
	釘を使いうまく接合をしよう。		
まとめ 発展 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習記録表に今回の学習内容をまとめる。 ・自分の分担した仕事を行う。 ・次時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業でわかった点を学習記録表に記入させる。 ・後片づけの指示をする。 ・次時の学習内容を知らせる。 	後片づけ

評 価

- ・作業の取り組み状況やテストピースを見て, 釘を使って正しく接合することができたかを評価する。

2, マガジンラックの基本形の組立図 (等角図による)



3, マガジンラックの作品例



取っ手付きタイプのマガジンラック
側板Aの形は自由に変えることができる。
側丸棒は埋め込み方法による。



取っ手無しタイプのマガジンラック
使用目的によっては取っ手が無くてもよい。
側板Aの形は、上記の取っ手付きと同じものを使用している。